小特度日誌

昭和二年五月
中院以降

特別
イ4
1919
599

176864

小精廬日誌

昭和二年五月中浣以降

五月

十五日　日曜

雨收る、日本郵船の社株主総会の通牒到る、廿一日午後早速畏留進捗今茶々宮の通知来る、新河新任知事藤沢庄平ともに挨拶状列る、伏賀蒿高須芳次郎の消息に接す

38- 9387

雑録を草す、小久江峰一氏(奥富)より西京塩カツノ子壱樽を贈らる、先(豆)子に久(全)を訪ふ、小久江来話、午後雷鳴、驟雨並到る、談する事数々、読み了る、驟雨に加へて雹降り満庭白を呈す、門を閉ち王維集を読み且抄す、晩前後城山瀬波漫々、養袖亭の為に道し、数画数紙揮毫も、

十六日

晴、風甚強く松ら騒ぐ、のデンプを贈り来る、五禾町害へ行く、五十円あまりを借す、田原へ酒賜

して帰つる、六数点の揮毫も二三子の為に応し雑録を草す、寺尾元彦ら来る

十七日

晴、本間久雄来る、雑録を草し、十時より出版部の重役会に臨む、本年度決算を決す、正午帰りて食、到着、高田・金子・田中・と共に演劇博物館に付て内談大要を決して後、学校の同気に気つきを観、図書館と気つけと共に明暗の大意を見、後に大隈侯記念講堂内に入りて室に見学を見、三時帰宅、静容

鈴木幸太郎ゟ御出刊る。御書後拾遺を書
きつけ夜に入る。余が第二隠筆第一隠筆
同し但方ましも枚数調をなし居る處六
百五十頁となる趣出版部ゟ報あり。若
千頁削除の要あり、本日本書ゟ青紫一
を元寄せる。一紫既に満ち餘地なきが故
なり。こんは洋装をも置く為めなり。此日図
書を嫌はさんと各所ゟも来る洋装本早
く一紫を満すに至り候

十八日

雨。高村真夫、下林貞雄、文善敬等ゟも

来信、ゟ利十時先を伴ひて横浜市内森町
に住ける久都巻の家を見えたる雨を冒して
家を出づ、十一時の電車にて横木町まで行き
見ゟも自動車にて森町に到る北遠海
水浴場にて出張開けたる處にて見ゟも三
町祝行き新築の貸屋を検しなり又自
動車にて横浜迄引返し、逗子の居に冬を
待つ、訓海する所あり四時五分の汽車にて
関京、味蕎に飯しも帰宮、内子来る、関
雪随筆を読む

十九日

時、早朝加島通二五體宮出係夏の事ニつき来談、山田清化林癸未天才其他ニ付演劇場物語ニつき語す、未刊隨筆百程第二冊配本、高村をつ天ニ答ふ、道遥選集第十回配本、於紹を筆にしてよりを費す、午後内子来る、自関雪隨筆を演む、今社とも昨日出社をもてしとしす来る説してやるの未知の人多篤好鈴木平とも余の隨筆ト山陽ニ社て書状到る、高田新太四十五年の紀念出版利達

二十日

時、大江乙亥つ大石現国来る、十時印刷会社ニ到り事を為す、午後大阪とも神田吉得来社今後今社と関係を続ぶニ付今見す、三時今社を去り理髪の後大隈今館ニ到り、桑木嚴翼宮鴻新三郎の内報を迎ふ今をひらき、九時内書、逗子の人とも来る、静岡の葵文庫より稲川紀念録を寄せ来る、先庵此

二十一日

時、棒瀬日年村山香涌、河井安俊交々来る、小久江来一来来る、昆田碑文の字

勾勒成る、内子と金三十円消す、午後一
時弟一高等学校に行く、此の両天体操
場に於て故早速昆田夏人の為め逝悼演
説会をひらく高田澁沢若槻等の演説あ
り、三時半大隈会館に到り早中の礼員会
に臨む、夕刻田館に昆田早速の家族を招
き晩餐の会を催す、墓誌勾勒の原稿を
昆田遺族に示し芝田へ郵送せしむ、内
事後内子来り昂の病状を云々す、畢九日
臨拠其事へしとなす

二十二日　日

小雨風、坂上石花来り例の注射を施す、尚
昂の病に就て語る事あり、内子又来り昂の
病状に就て云々す、旅程を革して来りを
消す、午後東台の桜川亭に到る稀出複数
会の主催せる珍本陳列を見回人と半の雑談
を交へ、会終り内田魯庵和田蕃吉林若
樹山田清風等と晩餐を共にし十時均
寓、

二十三日

晴、来城又次郎花村宗八四醇会の宗教
芝田の宗教治吉交に来訪、宗教治吉

ら有顔の小幅を贈る。高麗を拉して
飛来政の小亭に一面夕刻内裏、内子
夜に入り来る。早稲田大学とも来也
又高田平蒲とも三月三日坪内方
に会合しことを四十来る

二十四日

雨、能源を葉す。稔村家に出版部の人々
に乾き森脇美樹文的場合の件に付
来訪、鵜飼天洞とも其若畫微畫迷信
経を寄せ来る。早大出版部とも近刊本
五冊既本を受く。早稲田学報に寄す

べき原稿二十枚葉しちる。内子来る。

二十五日

晴、早稲田ユの殺く投稿、田村壮二郎来訪、前
田醫博士を昂の為めに訪ふ不遇、五軒
所宅を訪ふて神内の二三青店に荒干の国
青を婚ひ、田原屋に飯して内へる。大阪神田
先得、鹿田山店より来也。銀行とも三百円頼
金引出し半額内子に交付、新潟豊村崎靖
雄とも来也。昆田未亡人来訪、晩食後学士
会に到り文明場合の講演会をひらき石川
千代松博士男女を説く

二十六日

陰、朝来旅程を兼ねて、楠瀬日年に一簡を寄せ且つ金百三十円謝金を始る、昆田の墓誌を作るもの者を訪ふ也、昂の病状に就き前田博士を訪ふて話す、石塚三印久の件に付矢吹家を訪ふて来訪あり、午後光と氏に本宅に行き昂と病に就て話し、光田伴新右武蔵吹館の映畫を見つ、トム、ブラウンの学校生活高も具を覚ふ、田原尾に飯して帰る

二十七日

時、朝来大掃除を行ふに付家居所有す、早く於山本氏の文行堂琳琅閣を訪ふて四五の墨を購ひ文行堂に二十円拂入、旅田に回り山本書店に図朝別乱詩集生本を購ひ風月堂に飯して帰寓、旅程を養ふす、昔文の堂にも印六顆を購ふ、今夜六時星ケ岡茶寮に丸善重役を招飲、余出版部員を率て美役をつとしに村山兼一ケ新聞亮なりしも来信

二十八日

時、朝来京都浩古の岸の短冊十数葉押直毛山田清作森脇河外俊高原

流石交々来訪。稀書複製会本年十二冊配本
書留にて隠者遺集配本。池田金太
郎より大雅堂日か亀帖の複製寄贈さる
宮の先生を尤先生を俳壇先生に到り作
巻きし段し東五郎ゞ四ハる。坂上猶
来る注射を受く。金二百円内子に交
附。今日外出中撫子を枝折り拾寄りて白
鷺一将を寄せて去る。

二十九日　日

晴。楠瀬恂来訪。浮世絵類考集第一輯出版
に付協議す。雑誌を兼ねて池田金太郎に

謝せしめす。村山氏と助来訪。小林堂主
来る。部の成川久米吉井雲林の書画
集を刻するに付其艶稿小押直毛を
託さる。坂本麦翁馬二男洋行につきし
円一日東京会館に招かる。映画時報社
落写紙三より余の随筆に載せしめ度しと
寺を映画に仕込みたることを報ず。来
る新信の記掛るいらも鄰の清林一枝を送
り来る。午後五軒何某に訪り帰途流
倉の井戸をみて善請を贈して藤芳
仲居、夕吹の光来る。

三十日

晴、前田博士を訪問し、昂の病氣と付打合
をなし、本宅を訪ひ、小久江氏に來話
印刷會社自分持株新株十円拂込北金
額千五百円也、千円前日既に後渡ひ
五百円納入、午後三時大學園明館に余委
員長として塚内遺追記念塚拂殿資金募
集に付準備委員會を開く、田中塚内作
森井秘村伊藤河井金子五十嵐古谷川
出席、故意也、東菱記人のみ設計、竣工
期限ヶを決し六日午後再會を約して散
す、昆沙人等に臨み十二時帰り泳す

三十一日

晴、右碎の氣味にて何事も手に附かず、
旅話をよみ又小說を讀む、午後自
動車を餓ふて長書らし昂を伴ひ、菊
井町の送ひ中山四郎を訪ひ、中山を紹
介者として森波博士を同訪せし、昂
の病患の局部にレントゲンを掛けん
爲也、神田の青鉢を訪ひて一二の圓
書を得て歸る、五十八歳衰瀬的順河井
禦侯ともまた、

六月

一日

晴、倭文、[illegible]羽生操来訪、文藝[illegible]
郎ニ余の談話を[illegible]流して返す、森脇美
樹[illegible]と付[illegible]、近刊二冊[illegible]、伴山
利久投稿ニ付[illegible]、日[illegible]此日レン
トゲンの[illegible]を受け[illegible]報[illegible]を為す
午後[illegible]日本橋[illegible]、呉服[illegible]二三
[illegible]、五時[illegible]本[illegible]ニ相
[illegible]、[illegible]を[illegible]、余[illegible]
ニ代つて坂本次男洋[illegible]の祝辞を[illegible]

二日

晴、[illegible]福平[illegible]此[illegible]の挨拶ニ来る、森脇
[illegible]三十[illegible]話、河[illegible]本間久雄[illegible]
[illegible]ニ付[illegible]の紀念[illegible]、倭文
[illegible]の文[illegible]、余の談話を載せ
人[illegible]、羽生操ニ[illegible]記せしむ、余の生[illegible]
郎[illegible]の著[illegible]印税四十二円[illegible]
[illegible]ニ京都の[illegible]豆を[illegible]午後吉
田秀人社[illegible]来訪、[illegible]井雲[illegible]集出版ニ
付其の巻首ニ[illegible]、[illegible]成川久[illegible]の[illegible]
ニ応す、新村博士の[illegible]船史考を[illegible]
時[illegible]、[illegible]

三日

今朝程村宗八出版部の件ニ付来訪、十時大久保館丁町住内方ヘ行き高田を待合三人共出して鎗長後伍間、数に関し其所写内議午後を出すとも去る、神田に回り一二書店ニ回者を雇ひ帰る、溝口信區内地竜体育会ニつき来訪、国醇会より五日の舟游会ニつき来出、早稲田大学より八日維持員会議案回付、中山醫師へ謝儀十日為持送る、

四日

朝来旅館を業す、山田清臣来訪、遠遠印刷の業、幕金の推高を托す、十時日清印刷会社ニ到り事を変す、廿五日学季総会を開くニつき垂役会ニ附すべき議案其他ニつき者時写協議し、今後尚垂役増給の件、小久江常務元帰役を辞するニつき熊学金の件、森工務部長を罷むるニ付手当(年俸)の事、才を内議し四時帰宅、河井薬屋演劇場新報、筑善ニつき来訪、新潟藤田旅館ニ至る、夜後者を読む、

世国子を送り来

五日　日曜

雨、小江其一退職の件、行事内議して
去る、岡藤公の舟船今あれども行かず、十
時下谷の文門堂を訪ひて一二の書
を購ひ二十円交付、由余田原屋に酒
飯し、内宅後光を伴ひて武蔵館
の映畫を見、四郎三河屋に飯して
帰る、後日雨ふりつゝ出版部新築上
棟式を挙く

六日

雨霽、朝来猪鍋を蓄す、大工作淵角花
より薩摩製鍋の茶壺湯鑵茶托

を寄せ来る、甚北川瑞芳大ゆらしも前日
拙筆酒語雑冊を贈り、堂に勝し豚の
デンプ一函を寄せ来る、新菅田高藤治夫
より来出、去冬少芳堂羽賀虎之助良
寛上人扇面香画複製を寄せ来る、午後
一時早大の恩賜館に於て演劇、田坂勝彼
の委員会をひらき、設計し今日見聞人の
事、其他事務につき緊要の打合をなし
五時内宅、早大より吳昌碩書畫複製
図を贈り来る、村口青店より渡辺雲真
本黄立目録を送り来る、寝後十外郎高業
新報記者松浦他三来る、

七日

小雨、高田義鷹（高橋）を昭和二年大雪譜を贈り来る、十時克を伴ひて新宿の三紙に松を購ひ浅草に回り浅草に一二の出を購ひ銀座に出又物を購ひ休業に飯して帰る、内子来る、逗子保事を生すべきを婢来る、演劇場執筆資金募集趣意出二種印刷成る、山形の作藤良次郎来出、

八日

晴、森脇山田清水大石理田小林堂三十来訪吉田秀人社務二付来話午後一時豊校の維持員会に臨む二三重要議案を議し大く時間を費す、会終りて後余より橋田紀念事業を発表し一回の賛同を求め、大限会館に各新聞記者を会し此の事業の大要を発表して帰宅、新宿教育任出紀要金浮西雕ハリ新任の挨拶状到る、大川橋圓外三四の出状到る、淡淡大限より道遠紀念事業を聴して賛成を得て後人の唱に応じ十番寛相意、

九日

晴、朝来校録を業す、十時日清印刷会社

の重役会を臨み本季決算配当率を決
す、右季業状態可なる所のことに配当を
一割に留む、来廿昔株主総会に提案の
項を議す、其江帯教師任に伴ふ慰労
金を定む、開会後坪内紀念書業こつ
き賛同を求む、高橋産業部新宿校高等
こつき来訪、高橋芳次ゟとも十年也

十日

晴、坂上弘義来り、例の注射を施す、山田清
旭村山新しく来る、村山も書意見を
る七十五円領事、千時出版部の半季

株主総会をひらく、本期配当金二割二千百
七十五円領収、営業費金一貳千円受く、俗
拂金七千円償却、日清印刷会社拂入
当めれ義分三百円拂入、七千円遠
藥局への内大工作、滑入交付、午後東五
軒町電に到り工事を見、金百円内ゟ
治、永田の土底を治す、山下吉底、百円
拂、村口吉三百、百円拂、内二十三円大阪
廉田吉底拂を托す、帰途電車混雑
中風呂蔵団を見る、巾に花干の
類と実印あり、金百七十五円領り、領
入る、紹矢の風呂蔵包人を新宿車

庫へ老し間合せ之所幸と取戻すことを
得たり。旅館を業とす。

十一日

晴、羽生種らも来る、今朝自動車を雇り山崎
覚次郎、石清水一安田善次郎を歴訪し
道生紀念堂業の最後を拝して其の業
流を得て泊る、不在中河井家俊来訪
山崎覚次郎、出状を貴す、前田博士ニ酒
を贈る、日清印刷官吏部の堀修道ニ
投函一人早大紀念アルバムの官吏印刷
ニ関し余の意見を徴して来る、関大印とも

来る、文行堂を訪て岩瀬繼如手宮校
正遊志ニ来る、十二冊外二三を得て泊る、四
十四円勘拂入、五時偕乗園ニ行く、出版部
ニ電氣科諸義組出版するもつき本日其
受持諸学者を招き余主人となり打合
晩餐を饗す、来会者二十数名なり
散後瀬波養真亭にて鮭の味噌漬を出す
来る、ホノルル在住[illegible]冊呉昌義にも来簡、
坂上兎度刷株式会社ニ二十五株（一株廿円）
申込の手續をなす。

十二日

日

時、朝来高田氏峰の昔日譚の草稿を細
読して、加筆いし、石枝祥に及ぶ。桂村実
出版部の事務に付来談、山崎元次印
らも演劇論相談者、使人を謝する者
電話する、在仏哇丹呉昌花らも移
民権利に関する印刷物を郵送し来る。
内子は来る、東五軒宅を訪ひ、元田氏は
本橋に一二の物を購ひ、大思に和白の野
薔薇二瓶を求め、休業宣言し
て帰る、早大らも維持員会決議の出
類を送り来る、石原三郎子訪、大石氏
同に出状を書す、高田の昔日譚に補注
の附義を作り時を費す。真崎桂次印
より千鶴を贈り来る

十三日

時、小久江年一毛利宮彦来訪、森隔田
村寺を訪ふ、文明書院の前途を
議す、真崎桂次印も来る、四谷税
務署に於て所得金額決定を列る乃一番
七千四百三十円也、高田氏峰の昔日談
稿に附義を附し出版部に送付、午後
一時大日本の恩賜館に道遥紀念事業
第三回の委員会を開く、蒔記人二十人

決定、圖書館とも場所移すべき圖書決定
賛助員なるべき候補一百名を選び勧誘
の撰述を定む、申入証の印刷成る、四時
より今を閉ち内寓、旅館を蓋す、加賀迄
三印とも来る

十四日

時、朝来旅館を業す、大石理因河井無俊
来訪、杉山逸治とも先人の遺物松山松の
人形小品五貼を贈る、矢吹久出来訪
金百円無ふ、久々を矢吹省三を訪ひ其夫
婦を誘ひ出し、郭と完を加へ、祇来後田

原庵に千和を無すす、此宮後川崎克
の伊賀信来を讀み時を移す、金五十
円本書を為持せす、今夜光田秀人と此に校
友中山豊三を取寓館に招き旅誌苦楽に
就て話す、久々欲金の寓に宿す

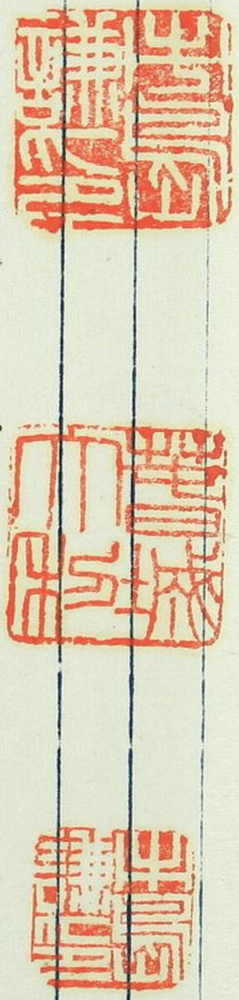
十五日

時、府税市税才二十円十六匁納付難波幹
事校務と付来談、山形の作度良次に出状
を蓋す、亦矢吹省三に間す、午後出版部に利
り部員に本事賞典を行ふ、祇田の寺訪を
訪ふて二三の圖書を解ひ、村口、百円掃

松久堂々十五回松雲屋々廿八回拂、新潟
新潟又五十年紀念ニつき来報、

十六日

雨、朝来旅館を業とす、程村家八来話、跡て
棒瀬日年来話、石印一函十一顆を贈ら
る内三顆日年の手にて既に剣体る、皆佳
石也、大学相認啟ニ宜くべき厨子と就
て相談を為す外に一二のものを托す、中田
通吾来話、二三昨書改装成る、近々出版セ
人とする隨筆の標題を揮毫す、午後山
田清風来話、三時過出游、二三青房を活



あて獲る不幸、夜日人国田雲山の隨筆
を越ひ帰路田原屋ニ酒飯して帰る、

十七日

晴、朝来旅館を業とす、保内紀念事業ニ
つき原田鎮治石川千代松井上辰太郎
副島八十六永富雄吉ニ出状とせこ青蛇
を見る、若苔房吉出版部退職

二付十五年後拍を贈る、森脇美樹大隈侯
八十五年史につき来話、午後浅草に散策
浅草屋に図書を贈ひ前日の御宅八十三
円浅草拍屋、不在市中山豊三十来給
拍を贈る、

十八日

朝早く在美倶に米郎の図書市に到り旅書
を購ふ此代笠田中四円五十五枚拂渦、細川書
店、三十五円拂渦、矢吹天逸子に保養中の
家昨日鎌倉のサナトリームに入る、三の校の紀念
アルバムを作るに付ひ清印刷の技術字をへの組

合れ埃の為の来る、種々のるのに陽り時を移
して去る内子来る家用三十円交付

十九日

時、鎌倉より久の青状刷ひ、小峰の昔がなり續
稿到来、阪上弘庵来る注射を施す、免疫
前髪道分紙拍株廿五に前し活拍金百九十五
円仮上に交付、随筆ト春城六種のはし
かきを作り大石現員に図付す、日印来
聖路加病院にレントゲン治療を受け此
る拍領を報す、昆田来元人来話午後神
楽坂に目さまし時廿を解ひ内子へ為拍

雪、午後高田半峰の昔日譚の稿を百頁
餘讀む、四時半自動車を起り田編
の自笑軒に赴むく、印刷会社主婦に反
社長并に重ねるこの十数名を招待余主
人とする挨拶演説を試む、坂口献去ら来
也

二十日

晴、朝来高田半峰の昔日譚に附注を
書きつけ十数枚成る、河井繁後一時
日文学出身者の遠遊情報彼の紀念会
会の招待を報す、来会者七十数名を

甲辺親郎生に是万圓を抜くと呼く、午
後事に倦んで秋田に散乗、糸郵便の前
回聯会五十年に付紀念切手とてうき)を贈
又細川出店より一二の図出を以て悔(る)、坂口
献去らし来也、其に是ふ、図書改編会
より来也、(二十四日大橋図書館会)内子
胃座雪を病む看護の為数を取出
せる

二十一日

晴、九時出社職員に米季賞與を行ふ後
余社の幹部と社服の打合を為す、坂本嘉

治馬と語す、河井要後（古）退紀念事業に付可
接、博文館にて創立四十年紀念として
明治大正の文化一冊を贈り来る、午後大
隈（今館）に文明協会の講話会を開
く、宮崎新三郎の伯朝鮮参謀長部支
那斑陸軍少佐永見俊（徳）の支那談あり四時
まで会を閉つ、松井郡治を付先祭出張
の橋本に飲む、明日田中光顕伯来
校の報を受く、芳堂世経歿す

二十二日

晴、山田清心来る未刊随筆第三記本補

潮日生来訪、河部良山自宮等蒙学者
一冊、蘇氏印略（良山自宮）一帖贈与
印四顆篆刻を囑す、十時登校田中
光顕伯を迎ふ、恩賜館図書館を案
内し大隈会館に午餐を御饗して一時到
る、五軒町宅に房脇の内子を見る、
酒一る、不在中真鳴桂次郎来る、旅館を
著かしてタ陽に到る、今庭大橋図書館に図書
協会の幹部会あり行く能はず断はる、知人の
囑に応じ揮毫、金三十円内子に交付、今
井七郎来訪、

二十三日

時、森脇美樹今朝ニ付来訪、直路桂次郎
来訪物を贈る、副島八十八ニも来吉、出
版部ニ至し近刊三冊配本、母の肩蔵ニ行
きたるも病来所夜ニも病状漸く可なりと報
す、午後散策神田の吉地を訪ひ、東五郎町出
ニ内子の病を見ゆ、夜ニ田的ニ帰宅、旅程を筆
す、今井七郎ニ問し来月節早稲田学の報
ニ余の續稿一回休掲を申入る、京都錦光山
宗兵衛の訃到る

廿四日

時、徑村宗八来訪、法木徳兵衛、桂内直道
延長頃本出版権利ニ関し来訪、十時ニも五
軒町宅ニ到る、食後帰宮、宮路房井浮
田と共ニ吉山の大隈邸ニ到り、文明協会の前
途を評議し、宮路帰朝の祝宴をひらき夜
ニ入り帰宮、金五百円家用内子ニ交付、
京都錦光山誠一郎ニ梅状を発す、原
田鎮治ニ来書、夜ニ入り雨降る

廿五日

雨、安江来訪、山田敦城ニ書を寄せて
事を托す、旅話書「西」ニ寄せんとして漢書
八境の稿を起し脱稿ニ到る、午後会社

に列る、二時ゟも生季株主総会をひくく例
のせく余議ありと等本季配当一割を決し小
久江常務、舟任手当、又係会一任に決し散
会、三時半相談役重役一同と星ヶ岡茶
寮に列りち時写に下等、少久江常務、原方
金重役増俸、建築増資の問題、才を
協議し、今会し別る、本季二千円の賞
與金を受く、配当金五万円五十円妻
名義分一百三十五円領収、来季ゟ余の
俸給年額五万円増加を決す、河井氏俊
ゟ来簡松ヶ枝ゟ物を贈り来る、

二十六日

時、今朝九時小久江氏一と共に新宿に列り
同ゟも電車乗替、澁谷に列り、兄
ゟも玉川電車に乗替三十分間、玉
川着、柳屋に投す、今日日清印刷
会社主人と等に、早大并に出版部員
を招く、一日の清游を試みたる也
十一時一同舩に乗り酒と妓を載
せて鮎漁を試み舩中、割烹して
会ひ且つ飲む、午後一時舟を棄て、
柳屋に入り又酒饌を出して飲む、今
衆五十数名皆碎を去して満足す

夕刻吉田と共に帰金につき渋谷を自
動車を傭ひ四谷三河屋に立寄
晩飯をして帰る、雨漸やく列る、山田
英太郎より元吹達夫の豊稿を寄
せ来る、山形の海道徳太郎より櫻桃を贈
る

二十七日

雨、渋谷は境の稽成り出音社に寄のす、高田
上峰の昔日譚に補注を作る、至誠堂音
店より新刊實用辞典を送り来る、内藤
久寛来訪、阪上弘花来り注射を受く、
実業日本社より七月一日三十周年紀念招待

案内状到る、沼田藤次、椎弁社一投稿後
頼外雑信到る、小久江来一来訪、内藤
より拓を贈る、武笑研究家山上八郎
より来出、旅館を葬す、大槻憲二高
頼梅澄の都外より来る、午後五都町電
に到る、昂都遊、平南を施す、建築費の
内貳千円大工に渡す、金百円前田に謝
礼、薬代九十円拂、二万円家用内子に交
付、門墻改造に付大工に差図して帰る、五
時任内紀念事業に付き招待を伊
原吉に園を大隈会館に招き程に帰
托する和あり、会るを先すして列る、山田

英大の〻投簡、

二十八日

昨、楠瀬恂武訪、前日嶋の印四顆の二顆刻成る、程村宗八武法註て牛村良矢、帝道の内状に付武法、打撃人て十一時日社の重役会に臨む、日社の宗務を渡ふ一策として大阪に某通信社を合ハセ雄姉妹会社を起さんとすると云ふ、滅論沸騰、元帰や二人反対をまゆすることの如きなり

監査役の態、分石的にもすゝめる、而て株主総会の後日に逼る、明夕乗分とすべて散す。山田敬城とも来る日長井雲城の手跡につき余とも其の遺族に賛問の個條につき詳細発出を得す。明雲後龍保を業し時を移す、甘峰者日深の稿を読み且補注を加ふ、法木徳兵衛依頼の件を山田清風を代して博物博士に交渉す、小山作之助の訃到る、

二十九日

時、桐を早稲田又々に投稿すべき長井雲
坪田の事を書き回きつゝけ正午ら十数
枚書きたる併し未完也、坂本謹吾
来訪、光鎮会のサナトリームに久の扇を給
み、小山作之助も折すつき[illegible]の在
を訪ひ帰る。小久江氏一（大崎）来
話、午後三時迄に長井雲坪の稿を脱し
本間久雄に寄す、小久江にも董[illegible]の難
を贈り来る、来る四日林町宗家宅に招ける、
今夕東京へ出發に於て帝国通信社の依
時重役會あり、前日の紛糾を再議せん
とするに依れども事に托して行かず、懸心と作村
良兵、宛者状を為持せる。

三十日

時、昨日に引つゝき暑氣加へる、小山氏に庭
遺族、香典十円郵送、隨筆掛会に付
大石理国来接、府税市税廿一円二十
円受納付、小林堅三郎訪、十一時神楽坂
に松を始め田原氏に飯して帰る、午後臥し
て新着の雑誌を読み、時を移す、後宮月
末勘定すべて回する、鎮会又にも電話
を通じ来る。

〇七月

一日

雨、朝来情田紀念事業ニ関し勧[illegible]
書状十八通を認め、前田[illegible]へ
サナトリーム(四)の又兵衛金三十五円貰ひ
山本利喜雄、山田太一郎、出版部へ
観につき校務の為め来訪、中ノ院礼四
郎ニ訪問す、毛利宮彦来訪、是を贈
る、河井[illegible]ニ訪問す、又山形の[illegible]
来る、海青を贈る、午後坪内[illegible]是非
退、又石塚三郎来訪、午後日比田[illegible]人、伊
藤のおあを伴ひて来る、伊藤ら是れを贈
る、高田の告回[illegible]の学[illegible]を[illegible]
の補注を施す、五時ころ工業俱楽部ニ
至ニ実業日本社の二十年紀念会ニ列
し、晩餐の饗応を受く、内会
の[illegible]拍手[illegible]の枝を
送、別し、十一時帰宅、随筆[illegible]文[illegible]
示し、冊配本

二日

晴、本間久雄ら来る、山田清作、河井[illegible]
[illegible]、古[illegible]表具[illegible]
[illegible]来る、毛利宮彦、森脇美樹来

訪、大隈劍邸ともやえの物を贈り来る、午
後温故学今今彼（澁谷氷川裏）に到
り塙検校の遺跡を見る、廣井一ともに
出殿部関係の集子入書状到る、旅行を
業す、金百六十円五都所宅、為打出
る、本所伯郎来る、

三日　日

晴、早起旅行を業す、大隈家別邸に伊尾
の菓子を為持出る、早大ともに誠要を見て
八日維持員会の通牒到る、阪上弘花来り
注射を施して去る程村宗八来訪、雄に図

五段黄漸進来訪、十一時完を付て出游
銀坐に托を指ひ外苑に哺し、新君、回
り武花会館の映画を見、蒲善帰
寓、大分野中陳、大分賀本たりとも頼
山陽耶馬渓図巻記の考証を記
して寄せ来る、午後雨（過）、氣温八十
五度、

四日

晴、朝来旅行を業す、内子侮蔑来る、
百円交付、大分賀本たりとも簡を無
き奇事を言ふ心説を誤る正々に到る、午後
登校、紀公ハ公其他につき其の技粋部と協

議す、午後、[illegible]五時、[illegible]此所宗家を訪
ふ、学生の為の寄宿所を設けけるとも事
さる、塾生の為一場の演説をなす、庭にて
主人の[illegible]麻布の[illegible]鹿を到り
晩[illegible]の[illegible]を[illegible]、[illegible]
三印[illegible]輸次同席、十一時迄[illegible]
吹省三条五軒[illegible]訪れ来る

五日

雨、藤沢利喜一大印[illegible]
寄附金同書、井上辰九印[illegible]奉城[illegible]
贈る、表里尾古沢金平[illegible]
書を徴す、此代金五百八月也、[illegible]

坐に金[illegible]具を[illegible]價三十八円也、下
谷文行堂に到り、子孫大里桂六冊を[illegible]
價七十円未拂、珠[illegible]三寄勘定[illegible]
田拂[illegible]、更ら相の本[illegible]六個[illegible]價二十四円
未拂、[illegible]田原尾に[illegible]
[illegible]現[illegible]
毛利[illegible]

六日

雨、[illegible]を筆す、[illegible]子孫大里桂を
[illegible]
河[illegible]

濃ゟも重栖他今朝着京ニ接宅ニ付敷
を迎へニ差出す、午後東五軒町宅ニ到る、
普請を見、万円内子ニ交付、去つて神保
町二ノ五店を訪ひ村口者店ニ五十円掃入
永仁三年の捨地帳を購ふて帰へる、雅波
早大鈴ゟ来ゟも来る、

七日

雨、程村宗八出殿都ゟ来る、出殿都ゟも
老千円借入、十時日南部即刷の宅時重役会
ニ踏む、真路桂次郎ゟも帰る横和を
送り来る、河州兼役ゟも来る、購入
ニ付新六個列着ニ付回書を整理
す、午後五軒町宅ニ行き、昂逗子日ニ係
留を定むるニ付送る五十円渡、又内子ニ三十
円交付、昂田来ニ人ゟも敷閑西二枚打
屋風を贈ゟる。宅ニ置き御游ニ供す、
廣井一ゟも来信、旅程を差下して敷ニ入る
河州兼役ゟも来る、所得税徴票到る、

八日

雨、真路桂次郎ニ復す、文三ニ三十円手南
生す、家具を整理す、小久江集一山田清
此来話、過故ニ会ゟも今後竣工紀念と

して冊子編んつきを送り来る。午後一時早大
の維持員会に臨む。大隈侯紀念講堂
進加藤等二萬円外、大隈元侯始へ納
を以大隈邸庭足に送没の件、大隈
家へ納付金の利子を納付金と保すせ
る形式の件、渓劇場扱銀へ一萬円寄
附之件、聖書勘定七千円支出し
件、査問会親定、書口部制度改
正の件等を決す。臨海子爵会長
席に就き退場後、余代つて議事を
敷山現す。四時内寓、河井郵便に簡す。
清水につき山崎元次郎に簡す。早大

に財産評價委員会を設け余委員に
推さる。

九日

晴、昂分朝逗子の後寓く赴く、昆田来之人
を訪ふ。光日付拍を贈る。銀生に散歩して午
後の後、新宿の武尾屋鏡の映畫を見、田
原屋に飯して内へ入る。東明中村吉田来人、森
賢次、中田強五等に遊ぶ。中元の拍を贈り来る。
大工ともに返加工事の見積書を送り来る。

十日

晴、山崎光次郎ニ来出、桂栄二郎来話、
小松善四郎奥田雲菴来話、井上辰次郎
河井恵俊ニ来出、午後五郎町官ヘ行
く、甚所廻り昂ニ来ル、皆後のトタン
塀出来、大工ニ渡す、ゆき五郎内子ニ交
付、浪田の青店を訪ふて物へる、收寓後
旅館を葬す、今夜帝国(旦)信託ニ完成
の路の主役公ニ出席ニ到す、雑信数
ヶ到る

十一日

晴、朝来旅館を葬す、阪上来り例の注射
を施す、河井恵俊演場募金の件ニ付
森脇会務ニ交ニ来る、以田川政文ニ来
る、清文館羽生操ニ来る、宝湾
の重極健より、玉鉢山西香一函、珠数反物
を贈る、十時出版部の重役会ニ臨ム
二三要件を決し、午後新築中の事
務所内を拾ふて物ニ入る、京南生峰の告渾
原稿百枚許讀す、以田川ニ来出
道遥諸河野の巡刊書配本雄弁
編輯局岩山行雄ニ来ル、余の寄稿を請
ふ未諾せず、

十二日

晴、朝来高田の原稿に附箋を加ふ、小久江等一
楠瀬恂其功、踵て重栖他列る、十二年振
の令見也、偶に賀田直治の其り諸派に時
を移す、重栖をして五箱所電を訪ひしむ
内子の重栖を見るへこれか初めて也、富田春
次郎の起かりて楠瀬元壽来橋、毛利宮彦
其後身上の事につき云々して去る、午後大
隈令嬢に到り、演塚の委員令に臨る事
を覚す、此委員令に臨み、此事格開始
以後一ヶ月後ハ寄附募集数五万
円に達したることを載せ、一外に採内印

税寄の此二業同事にこれ迄準備委員
をして全委員を[illegible]経る也、委員
の性質を実行委員と一義也、更に
実行委員二十数名を挙げ、常任委
員三名を挙げ、余再び委員長を
る、此令終り歌舞の大谷と帝
劇の山本を印く、代償も寄附を
る件に[illegible]合を為す、高田松本松
等伊藤[illegible]金子外数名の委員
出席、合事を共にして九時に散会
す、上略[illegible]次[illegible]来也、内山省三より来也
又物を修り来る、逗子郡宛物を送る、

十三日

時、重栖とも贈る藤の揉橋子到達鎮公
矢吹久子く金五十円郵送、今井七郎に聞す、
真隆桂次郎に沈香を送る、文藝倶楽部の
羽生操来り余の論説を請ふ即ち渡す者
事につき一時間蒙給せしめ他の一半の論
説を約す、小林堅に来り余の為めに雑作を
募金し紙を贈るの事あると載し
て去る十時大隈会館に到る大隈元英雄人
の銅像を庭に建設に付地を相す、
大隈侯、森、銅像、朱元代家、朝賀文吉
外四名役幹部来会五上に地を相し十二

時迄て去る、此金五十円の普
請に付ある所の量回を有して依賴ある
る、石本山崎二人次ら賀田以武来
過賀田とも果物を贈る、ピアノ調律
河山田来る七円の義を出す、猶何を
業す、帝国通信社より十二日夜出京
今館に於て重彼今をひらく通牒
到る、

十四日

時、羽生操来る、時日を引つゝき渡す者事
に就ての論説を書く如せしむ、重栖使来る

ち時分訪しも午後を出すまで訪問の為に庫
四郎とも来る。旅館を業す。晩る重柄を
伴ひて星星茶寮に晩餐を供す。歌光
も同席し、重柄とも山口清想並五枚照ら
る。今日正午氣温八十八度

十五日

晴、大石理国王訪余の道華校了を報じ
東行金部戻し来る。内子に三十円交付、帝
道并に楠瀬に書状を見す。重柄夫妻の今
日昂を逗子に訪ふ。寺崎文重来訪、九谷想の
鉢を贈る。午後印刷会社に吉田秀人を訪
ひて森村銀行にも五千円金駅の内旋を依

頼し出版部に到りて事を承し、東五軒数、
回ハリ晴宮、大石、校正料、吉田書を出
版部主管拂。本日久雄の道著述文藝通
接手。今日正午氣温九十度、閑談旅寺を
読む。晩飯後大隈会館に行き、文明協会
の業話会に臨む。後藤朝大臣の支那話
あり、深更散会

十六日

晴、楠瀬日年に鳴し、宮印二顆参刀、随筆
選集に状を書き、国書四五部貸付、吉田秀の
人重ひ書ひて森村銀行にも六千円借入、日清

生命株券二百十株捨級として差入る、期限九十日間

文之
冷趣

吉田伝次郎の芭蕉談ら、紙作会に二十五円毎年の例に依り宮の附、四時政事館に於て高田姫内に会し総長交迄問題につき内議事、河州家侯ともに来る

十七日

晴、村山秋浦高橋海三来る、高橋ともに柄を贈らる、重柄健夫長来る、重柄を休みて江戸川橋をこゝ午前を與ましを別れ、五軒町宅を訪ふ、内子に三十円交付、五千円明日明り、預け入るゝ筈、内子に交付、里つ川、文行堂に二三の国、己を贈れ七十円拂入、神田に回つり細川寺居に四十円己の代拂、四時過ぎ、風寒、真鳴桂次ゝ来る也、於此を筆し於此を談ぬ、実日暮る也、

十八日

晴、塚原周義ともに匠尼湘南吟学外に福民説一ツ番を贈り来る、重柄健来る、河

外務省に鄭君をも尋ねず、出版部員高嶋
小三郎氏余が旧著六種の出版の
案を齎らし来る、十一時頃をはからひ相携
而て通りまで一二の者を誘ひ大金に飯して相別れ
四つり図書を購ふて帰へる、石塚三郎重梅
同伴来訪、重梅と晩食を共にす

十九日

晴、半峯の昔日譚を渡辺氏が附箋を施す、
近子よりも電話にて病の昔を報じ来る
菓を持ちて文三を送る、樺嶽集の
説選集の材料を続々掲げ森

美術以外務省来訪、原田生と共に
を贈す、重梅の手紙に従ひ遠からき運動費
四五種出版部の世話を元宮某にて
價廿七円出版部主任と協議す、午後
理解せる、五銭町書に立寄る
、重梅氏来、安田石塚を招
飯、

二十日

晴、朝来旅稿を叢し校正を注釈
を施す、印刷会社の者早稲田のアルバム
遠近と載せて来訪、之を伴ひて出遊、遂

武花明朝の活動を見、内政倣て河井[illegible]
今にして演情の打合を為す、其皆大改に於て
こもを吠す演情の関係也、森村氏の日を
回音後協会式よりも来る、逗子の房内に
電報を着す

二十一日　今日土用

晴、山田清風来訪、十時印刷会社に到る事
を要す、河井要後にも来る、四山論吉来
訪、旅館を兼ね、東五軒町宅を訪ふ、森村
銀行へ出状を発す、出版部にも随者春城
六種の装釘見本を持参、開新旅館を
訪ふ、又々の場に到る、早大より帰後の旅費
る二十円銀牧長崎の校友本多親家
来訪、拠を贈る、日清生命保険会社
借入金前限満つの通知到る、内子に平
内交付、

二十二日

晴、今朝先を逗子の房内、着る金百円
拠の帯、日清生命保険会社へ四千円
借入金の通知証を郵送す、内子来訪に付
四千円利子二百円交付、坪内逍遙来過、神
田の村口青屋を訪ふ、余の産業と十月
售賣に付其の準備等打合を為し代用

雲に飯し、東西雲に巡刊者三箱上方屋に挨
及の細茶蓮を嬉しく伸る、苦瓶と謝つ
能出を誤む、一浴妃めを快を覚ふ、金[illegible]
来る夜を生ずす、初に入り先仏事

二十三日

晴、大江外淵門墻堀巣造代集の内貳
千円海す、舟来和宮御事 跡を誤む、河
外安後大坂行に つき打合の為めする山田
山平 其愛花の池大雅刷 囂々の印を
裏すし来り余の疑渡を包み誤し頼る
克を休む日本府紀生に物を嫌ひ外考

に飯したかへる、出版部の高崎余が陥筆
楚衡に就て事訪、日本評論者の千倉
書の沼文化全集に のとし来話、入茶萬山の訴
に接す、今夜は時三十五分新潟に向け出る同
行金柳他石塚に乗り松井郡治中桐碓たり
服部文四郎山田論吉、車中松木弘に会す
又天谷竹紫の俳優一座を引率して新潟に
赴くに会す、誓の帯の酒を出せ松井松木著
と飲む、作物地に入り一両あり、車中清涼
を覚ふ

二十四日

時、五時直江津まで起床、城後路東京に比
すれば氣温低く、清きやすし、石塚重栖を伴
ふて三條まで直ち大河津視察に出く、今和
新潟に戻る筈、八時半新潟着多數の校友
出迎ふ、直に篠田旅館に投す、廣井一外四五
の校友交に來接、大阪にも演場の件に付一五
列き、午後高田信吉子着、一時新潟新聞
社構上に於て講演人をひらく、服部中桐
あ教授講演數時間にてする、五時より伊太利
軒に校友大會をひらく、余演場に就て會衆に
告ふ所あり、同所に宴會を開く九時散會後
二十數名の校友と錦葉亭に轉飲、十二時迄
あ接に列り歌す、例の如く酒と他調

廿五日

時、六時旅館を出て歸へる、人の嘱に應じ三四枚揮毫
吉田和男來訪相を贈る、東京朝日の通信員
來訪余の郷里に於ける政治經歴を聽ふんこ
とも也、即ち斷片向ふ話す、廣井又須美石
塚才續に來訪、重栖他所者田く作く、吾
家の墓を拜する筈、山田教城來訪、十一
時服部中桐を伴ふて白山公園を觀、和接
に妓を迎へ酒杯に親しむ、山田教城
かゝ、四時迄飲み、優け、末松井高藤才

に招かん飲み、酔尾に飲む、酔尾に飲む、洪濤八時
三十分の汽車に投す、高田勝部中相
重松山田海主皆東海の金に就く余
直に寝に就く困憊甚しく天明迄前
後を弁せず、瞬

廿六日

晴、九時皆山崎覚次郎外数名
同当状に接す、所得税四百十七円飲酔
納付済、加藤蕃尾葬儀に和泉文三を老
し香典十円贈る、内田川政文丁来訪、随筆
文学選集第七冊配本、午後四時半神楽

坂に拘を贈ひ田原尾に飲む、内子来る
旅線を蓄し状に入る

廿七日

晴、毛利宗尾十来訪拘を贈る、山崎覚
次郎に答ひを尾す、旅線を蓄す、中相
碇右郎来訪若方を贈る、光と神楽坂に
拘を贈ひ田原尾に飲す、喜代四家庭
と此メきえ尾の拘を老す、午後砕臥お難
拘終を読む、重松来る、今夜河井あの後同
伴大阪に赴かんとも七時家を出す、此日
行坂内北会事無来拘現の如見也、重松

他信来病に又之る、東井河帳と会堂に餞
寝に就く

二十八日

七時大改着花家に投ず、九時後退紀念
業の委員土尾充豊国依一印石蓑松帝
伴達俊光坪内士行続々来接、谷村一太郎
も亦来る、午時委員と会事を共にし午
後北の豊国に見紀を説し与諸家兼に谷
郎与託を歴訪するの方略を決し自動車
を絶り余河帳の西坪内豊国土尾の三人同
乗二十数家を歴訪為めに二時間を費

す訪問の上面ありしものの四五にるさんと
も皆刺を通す、翌日の日本国動
の如く笑顔の際殊に好を覚え、五時
津信濃橋経主郎に昔紀人会をひら
き、余席上一物の演説を為す来会
者四十名、幕集万法に付堀議し九時
散会、数今後北道松紘に委員を拡張
る前一時半に到り、終に帰宿し得ず此
家に泊す

二十九日

時今朝七時半河帳と共に起き松紘に於て

卯酒を試む、主婦并に老妓一人酒を侑く十時過
花家に臨る、高山圭三委次石割豊忌土屋等
来り前夜の今議に未決のものを協議し午
餐を與ふしも尚詰妓の協議を為す、関
西日報記者来訪、坂内道退に就ての経歴を
問ふ乃ち談話一時間に渡り筆録せしむ、平田
謙衛右へ河井を坐す、今夜七時半急行れん
帰京の途に就く、車内食堂に河井と書
取十一時半名古屋にて河井下車、初
めて寝に就く

三十日

今朝八時半家に帰へる、山崎晃次郎高橋
芳次郎田代亮次郎方兼庫四郎服部
文四郎等ゆゑ来る、来出、諸部より柏を贈
らる、高田半峰昔日譚の續稿百枚給
讀過、旅者をよく時を移す、内子来る寝
後睡眠を得す、深更迄者を讀む、地震
何う、一夜日暮執に困む、

三十一日

時、服部文四郎大阪の松糸、新潟の和梅
二郵也を着す、亦河井敷俊に簡す、在
執一法坂内道退に一也を着し大阪の状

況を報す、田代亮以石塚三郎来訪、午後之
を伴ひて新宿の武蔵屋に跡々映畫を見田原
屋に飯して帰へる、近所者二郎勝の、去原義
雄、菅狂を吹く、毎夕の驟雨あり

○八月

一日

晴、朝来雅縁を筆す、山田清心来る、加藤蕃
心来二人来りて話しもする、本間久雄来訪
相を贈る、午後花川託し田の陥筆を読む、
道遥選集第十二冊配本、出版部より当
田中峰の原稿を回送し来る、早稲田出版
部より亦近刊者六冊の配本を受く、夕刻重
栖来る

二日

雨、朝来に峯昔日譚の補注を作る、大
石理円程村宗八来話、重栖夫婦今日鐘受
に久を訪ふ、久に交付すべき五十円托し去る。
午後木宅を訪ふ、内子に百十円交付、花
川陥筆を読む、入浴後日晩雨、早く
臥す

三日

晴、少峯昔日談の疑文を移す、坂本三郎
大隈老夫人相像の件に付来話、加藤恵
来之人来見、銀行にて飲金の内三万円に出
す、午後光を伴ふて出游、[illegible]山形[illegible]話
及人宮の邸の郵出刊す、光と田原屋に飯し
松ヶ枝に西瓜を拾くて詩ふ[illegible]牡丹
に拘を稿す、[illegible]人[illegible]
入る、左大沢塘西士行にも来也、夕刻松ヶ枝
に到り渡辺[illegible]と飲む、[illegible]河
井[illegible]後[illegible]来、

四日

雨、小林堅三来訪、長瀬[illegible]を問ふ、雄くも来信
阪上弘菴来り、[illegible]の注射を施す、山田正平
来訪、其嘱に応し池大雅刻印の一連に款
す、亦春城[illegible]一冊正平に與ふ、大工井
游[illegible]菴に聞す、午後松ヶ枝の辺うく聞
業[illegible]と事([illegible])於生何堀[illegible]の家を
訪ひ渡辺[illegible]と[illegible]
園を[illegible]、[illegible]大力[illegible]
を[illegible]三丁目に訪ひ、第[illegible]町の鮨幸
に同行酒食して[illegible]

五日

雨、余が「池華春城六種」の廣告分朝の東京
朝日に始めて出づ、福岡郡海羽郡有志柳
馬垣の消息到る、賀田直治重極健毛利
富彦其訪、其夜尾古津新居襖の
ことなつもし来る、吉田彦人社用まて来訪、
旅館を業す、重極と晩酌をせます、相来
雷雨、和田萬吉も来る、

六日

雨、六時十分長砂にて出る地震あり、和田萬吉に
巻ゆ、新義田上野吉氏永次に投簡、昆田
蓁剛に就すべき地名簡原校文日らの花書
花の刻字を抽筆して送る、賀江建一来訪
二つき画を論して晩も移す、午後森暁紅の
小説を讀む、高橋義彦も五十公使米の収
獲三十七円郵送、白井松次ゆ坂松本正さよ
り来る、ゼ子ウ菱細井某も給えこのき到る
重極以日関西諸地を経て晩台に付来つて
別を告く、

七日

晴、高田な峰昔譚の續稿を讀み且つ長文
の補注を附す、外蓁来二人二夫の遺筆を齎

一来り示さる、森暁紅の小説を読む、十一時光を
伴ひて出游紀生に拘を賜ひ且口飯し、御飯
東五報河宮に三宮の金三十円内ふに交付
後宮下婢先に分給し二十円渡す
旅館を蓋ひ一亦小説を読む

八日

晴、高橋義彦稚村楠瀬に出状を発す
芝田の小田壽光来訪、旅館を業す、十
時頃地震あり、亦高田に峰の前行(四)り
来る、新河芸高須梅浮并和梅ふも
其也午後光同伴武蔵館の映書

を笑次又満つ、此路田原屋に飯す、と
夕重栖東京出発に付静の送りに托し
新刊の金分随者を生る、出版部ふも
十部元高のする、

九日

晴、稚村宗八楠瀬に来る楠瀬に一三の金
を贈す、新刊随者を贈る、廣井一来訪
陸七高藤治吉ノ来訪、心里の酒を贈る
西人に随筆を贈る、光豆子に行く、松ノ枝
与柄を寄せ来る、本宅茶室本のまも修理
に元のくるまつきに行きて見る、土甚根太替、屋

塗り並べし一週間より生来の菴、仮宿の書架完
ち若干の図書を之に移す、隨筆を大
隈家別邸にて旅程を筆し時を移す

十日

晴、生田葵山に訪問して如人十數と近刊隨
筆の表題を記す、生田葵山も紀念アル
バム著行に付其案の擔任者より余の
意見を徴す、旅程を筆す、文三號後より
少將子、午後森鷗外より隨筆一冊寄贈
序君の消息其時桂次郎の消息を報す、横顔
小説を含み讀む

十一日

晴、日曜珠に暑し、朝早く旅程
を筆す、新聞石原に至り西瓜三顆を
送り來る、稿書石田卯平隨筆をおくる、
之を仕分け浅草を書し紙仕上げ暮に酒
含し五銀行にて、帰り家兄を整理す
驟雨去來、此頃の後、旅程を筆す、
五十円内子に交付、夜に入り雨

十二日

晴、楠瀬日曜に媾しに生田葵の着服衆
稲荷山前村を根き交付す、文江堂一雲兄

の山水情を寄せし来り示す、赤城又次郎之
詩も時々語す、綺宮人とも来る、名敬する
後旅館を著す、少峰昔譚昔行百枚始
閲了、星岡茶寮主北大路魯山人とも自作
の画集二種、小奇也来る、小説を読み夕刻に
到る、夜来雨

十三日

雨霽、旅館を業す、小春林次郎山陽の著也
宮本を持参、余の鑑定を請ふ、多郷に困る
光を伴ひて神来殿に一二の物を購ひ田原屋
に酒食の後、新宿の武蔵野館の映画を
見て帰へる、作蒜澄から果物を贈り来る、
夜雨

十四日　日

晴、住所派遣芳和田萬吉とも来出相来る
ゆく臥して小説を読む、田村又六来接、新聞
亮あり、鳥海を贈る、新春田小田壽吉に
簡し、昆明碑文の拓本追送を請ふ、午
後も臥して小説を読み、刻を書き丹吳
宗吉とも来る、夜来又雨

十五日

時半降雨の自叙伝の跋を業化す、演場
のつき高田より来也、河井敷後に簡す、今社
の弁財天評堂先頃の火災に焼けたるを再建
に付き遷座式に臨場、工場負担附し一春
餞を頒つ、五軒町宅へ四つり家里を整理
して過る、牡丹を拘を贈り来る、午後旅館を
業す、高橋時半降より迄著随筆過ぎ
まくを贈り来る、

十六日

時、朝来半降の随筆を讀む、棒瀬日年
来訪、早大の招魂殿に至り春日一厨子につき
寸法を議す、大石理田来り余が新刊随筆
一通りを出す、して初版既に老人とし再版
に着手のるを報す、一ヶ所組替を托す、
古津表を辰蔵に云へつき協議して去る、
桜友芳賀栄造来接筆稿史を贈る、
高橋義彦より来也、銀のうち二百円引出し
五十円内子に交付、高橋来筆関大らに
刊随筆を郵送す、新潟山中椎山田敷
城に書状を書す、内田魯庵より来也、
午後袖田の一二の書店を訪ひ本宅に立寄り
田屋庵に酒飯して過ぐる、埼玉文刊高橋篤
恒出先よりの傳へこうきし刊る、

十七日

晴、朝来施保を業す、後上弘庵来り傲
の注射を施す、薄田貞敬来話、未知の人
愛知好中峰郡山川経[illegible]来書
余の随筆に就云々し挫亀を雷む
宇都宮真鳴らも物を贈らる。午後山田清
心来る随筆を與ふ、倦々来り先を伴
ふて散策神田に物を購ひ、紀生と子々
の映書を見井高、飯して帰る、亜栖
門司より乗船帰台の金に上るの電報
到る、山田義城より余の随筆にのき来
也、出版部より随筆五冊元寄る、

十八日

晴、大阪の演博期成会より来る、河井[illegible]
より寄の附金の[illegible]説を報し来る、朝来
宮川曼魚の江戸賣笑記を読む、日清
印刷に於し[illegible]名刺二百枚出来、森脇美
樹来話後宮の下婢病んで暇を乞り去る。
午後施保を[illegible]して時を移す、文部
[illegible]大隈侯八十五年史一部并に近刊
の今本一冊送り来る、保内士行より身上の件
二付来也、

十九日

晴、高田より峯とも次期の二の枝結長の
鮭りつき来間、閑に乗し人の為めに拝
毫、又旅程を筆す、手峯とも曲附の原
稿百数十枚漢ゝ、中林邦ゝ能博多美
重栖他山形新温海等高須芳次ゆ
ゝも来也、午時神楽出陽に拝を贈ふ偶
ゝ御姫に分ちし也ゝ椅をゝ入り酒飯
し椅の枝に鞘飯して吹くる、松ノ枝
ゝ鮮魚を焼り来る

二十日

晴、朝来旅程を業す、高田より峯ゝ青枕
を着す、詩四亮太印ゝ黄茶と云」の
小冊子を贈り来る、田村荘二ゆ高田日報
主筆とせゝ通訪、出刊の陀茅を各々
賞ふ、陽上松花来り注射を施す、文三
妻子来る、太陽記者料治能太耳り太
陽に余が頼山陽談を載せることを請ふ来
月書き寄稿を読す、午後臥して島
原美少年録を読む、和田喜吉とも浩芝
を始なる湖を到る、新夏田高ゝ原治光とも
新ゝ頼り生ゝ江戸ゝ通したるを双六一枚
送り来る、

二十一日

晴　高田の昔譚の為めに百枚談話(口述)　新潮の訪問に余が随筆の批評出づ、都ひの記者に随筆の第二回広告出づ、内容は三十回交付、旅行を第す。又小説を読み時を稿す　随筆集改本、河野氏来訪、重松健二分刷着台と電報し来る、読後気分論ともえて(へき)一函を送りて書きつける、其後の紀行を遠ざけて　山陽論を書かんための序読了

二十二日

二十三日

晴　梅渓田年来訪　奈良の大西勇治より春日図子を注文せんとせし其の図案を徴したる図とも併せを招き、早大の批評家に用ひんとする料出、出版部よりの謝金を交付す、旅稿を書きまた、内藤久寛より来る、出版部より新刊二種　配本、本当に抵り善治を見て問へる、望の上清書済み論き江見水蔭　蒼硯友社と改題を始めて読む、也中自分に関係ある所　抄録　夕刻ともりやむ、

晴、朝来雅樂を奉して時を移す、光逗
子へ報く。今夜八一とも別荘の接樹につき
来出、午後来峯の随業を誤る、文三来る、矢
吹者三郎まへ日本ゆ田中光顯伯を余の
随業につき来出

二十四日

晴、朝来雅樂を奉す、古橋友次郎帝
道の内情につき来話、田中伯叔村良貞に聞
す、又帝道のあ達覚に聞す、中木邦之助に
返出を投す、十一時を電を訪ふて子を
送し、光を伴ふて出游中央停車場に洋
食を喫し、自動車を起り音羽橋を訪
り被服廠跡を訪ふて震災目の罹り者六
靈を口中に災後ここを訪ふ初めて也、四枚
彼の朝鮮訪説会を一覧し、[illegible]橋
下の通船を望して吾妻橋に至り浅草
観音を拝して帰へる。逗子とも電信来
り文三薬餌を廃らして行く、[illegible]に入り
重栖仕に古文の出状を認めて発す

二十五日

晴、大陽の曜に応し橋を起し未成す
あ達覚帝道の件に付其訪跡て古橋友

次に印刷件につき星野錫の意を質さしむる
竹村良貞氏に電話を通じ急に正午より
日本橋倶楽部に集会することとなる
余高達と共に行き、二人を待ち合せ四時
頃に漸く会社の前金を受す、余切に根
本的整理を星野高田両氏に決すべく
五時帰家、幾くして高嶋米峰来る、夕
印刷社員高橋少年の訪来る。竹村良貞
に春秋六種を贈る。森田義郎来る、来宅
内田来る。大工より一千四百の支出費の請求
を受く、議して支出を命ず、寝後雨到る

二十六日
新聞紙報先地の費八十五円郵送
電話料廿一円銭付、振替料支払
税金十四円銭納入。大工井淵に七千円
渡す、起工以来内金済七千五百円と
なる。竹村良貞氏来訪、帝国連盟二付長時
間論議す、山陽論を贈す、未成、午後
神楽坂に物を購ひに出かへる、途中
語らむ、来書を挙げ出す、高嶋米峰
に撰問、一三通刊の挿図を撰めて挨拶

二十七日

[illegible]

二十八日

晴、河井[illegible]後々[illegible]
浦漢[illegible]寄附[illegible]約十[illegible]
山[illegible]三[illegible]
厨子の件[illegible]
[illegible]

二十九日

晴、朝来小説を[illegible]
来[illegible]出[illegible]部[illegible]四月[illegible]七月[illegible]
税三万円[illegible]中[illegible]
後[illegible]五[illegible]
[illegible]日本[illegible]
[illegible]丹[illegible]

信、山中推送、今の道、勝到る、小濱を讀る
夜に入る

三十日

今朝四時、[illegible]一過、今朝雷鳴ら雨つゝく、朝
鮮著者、[illegible]馬垣の書状到る、太陽に投すべく
山陽論を著す、十一時本宅へ行き、三
の家務を兼し、銀坐に[illegible]を購ふ、晴蹤雨風
はげしく滿身濡ふ、日印豆子を引揚
く、小橋村義太郎に謝也を著す、雜報
を兼し、[illegible]入る、[illegible]未だ人来る

三十一日

時、日集之著記者[illegible]、[illegible]余の
揮毫を需む、謝して遂す、小林堅三年
の昆田文[illegible]の墓誌、余の撰文拓本を贈
す、阪上弘義すなり、[illegible]の注射を受く、肇嶺
元太郎[illegible]、玉山好農、[illegible]の依
頼を受く、山中推[illegible]、印刷會社に到り、[illegible]
[illegible]の建物[illegible]、早稲田分
工場に到り、近かく[illegible]、[illegible]
出版部に立寄、[illegible]、[illegible]
上[illegible]の山中推送、[illegible]
後、山中推松[illegible]を拉し、松の枝に飲み深
更[illegible]

○九月

一日

晴、本日大震災紀念日也、早朝自動車を
起り、動改に高田を訪ふ、田中穂積難波
理事改に列り在り、十月大隈侯紀念諸
堂落成の際の祝典に[illegible]細に順序を
協議して後、絶長理事改選に先ぶ維
持員改選の順序日取ふを協議し、
る長時分に渉る、午後余郷まり出版
部達相電分の件、相視政一剛子注
文の件、加藤萬化遺族扶助の事ふ
を内議し、二時帰寓、不在中に久須香

三郎来遇、高田より漢頌集を贈らる、
高田の昔日譚の稿を読む、加藤萬化未定
石塚三郎降蔵元太郎来訪、有田民義
の嘱す石塚に拝意す、石塚に随筆を
贈る、

二日

晴、猶稿を筆す、鐘谷久、五十円送金
昆田未定、田村壮二郎来訪、小久江其一郎
来訪、坂口献吉来京誌となりとて春摘
太陽に堂のすべき山陽論を蓋し稿す、午
後倦んで光を伴ふて出游、新右の武蔵

[illegible]の映画を見る[illegible]間田原[illegible]酒飯
しを[illegible]

三日

雨 楠瀬日年を招待して招魂殿の一劇子
氏名帖[illegible]石[illegible]
を協議す、程村宗八出版部寺[illegible]稿
[illegible]大陽記者料治然大
来る、太陽に寄すべき稿を校正して郵
送、十時自動車を起す麻布材木町
に内藤久寛を訪ひて降旗元太郎とも
[illegible]を協議し十二時[illegible]午後

本日、行き漸やく[illegible]の書[illegible]を見る難波
理事校務に付来訪、青[illegible]の図
書若干戻り来る、降旗元太郎に明朝
来訪をもとむ、

四日

晴 楠瀬日年早朝来り招魂殿に宜くべき
氏名帖の高遠其他を協議し明朝祠堂
を実検せんことを約して[illegible]、降旗元太郎
来訪に付[illegible]内藤訪問の仕末を報す、高田
の昔しばなりしの稿を読む、萬尾正居
来る不用[illegible]を[illegible]す、和文三[illegible]

来る、短冊二枚揮毫、楠瀬の庵に在す、午後
克を伴ひて散策、銀座に於て旗を購ふて五軒町喜
、聞ハス、七尾氏築の為め李筍藩を運び
訪ふ、[illegible]不在中[illegible]牧[illegible]来訪、
陰将も[illegible] 紀念生殿計畫書を送す
来る、

五日

暁四代目[illegible]覚[illegible]の[illegible]甚、余
の[illegible]を許ふ、甚二十枚[illegible]、[illegible]
書を[illegible]と共ニ[illegible]説[illegible]ニ付[illegible]
[illegible]を[illegible]大隈[illegible] [illegible]説[illegible]

の実地を[illegible]し、[illegible]の[illegible]を[illegible]き[illegible]
の式を[illegible]を[illegible]生[illegible]三寄
り[illegible]の状況を[illegible]、[illegible]
余の[illegible]ニつき批評を[illegible]、[illegible]
二[illegible]の出づ、午後二時高田と[illegible]
し総長改選の件ニ付先[illegible]て[illegible]
倫其他四五の維持[illegible]と来会
を要す、高田総長[illegible]ニつき異論[illegible]
[illegible]余[illegible]停し一年間総長現[illegible]の
まゝ[illegible]其間田中穂積代理といふ[illegible]
議[illegible]エッチビ[illegible]特許[illegible]中田[illegible]
[illegible]生殿[illegible]生形式の生殿とある
[illegible]

度告を見と抗議書を提出し来る、高田
の告尤なりしの狩金部讀了

六日

雨、七時頃地震あり、稽村を招き出殿部
の事務を受ける、峰岩譚の補注
五枚を草す、こんなる金部異る、愛知
郡の校友野田市三郎も来る、高田来訪
同様大猥分餞に列る、田中穂積と今も此
夜新美餞に招ける協議の次第を報し、統
長江則満了の後、更に同一級生を挙
げ、一年末養の間田中が代理すること

とを読き田中の快読を得、会後竟田
田中雑波と桐山校師を招き招現取
を務すべき松葉山を擴張すべきを協
議す、終つて出殿部に列り新築の各
室を巡覧し、落着内容、一二施設の
す、松本倫理内海道場田池田山本金子
に簡して田中快話の事を内報するの
青簡を見有、皆此様新美餞に今今の同人也
夜に入り稽村来訪、此日演場のうの新天を話す

七日

晴、楠瀬を招き招現取の件につき二三の事を托
す、厨子恭心家に破論手数料大々の為の

立路柿瀬に托す、本宅電燈装、金代二十円
渡渦旅行を兼す、宇宙寧夏来る、表
里屋古津招現殿の田氏名帖の用紙見
を贈らし来る、十時印刷会社の重役会
に臨む、終つて重役一同早稲田の金工場を一覧
して帰る、旅行を兼して時を移す、七時頃
地震あり、柿瀬より電話来る

八日

雨、山田清風来る、同人に托して民友社出
版の山陽寺罰集二冊入手代金十六円
五十銭柿瀬かく成一来話、踵て仮上様
士来り例の注射を受く、柿瀬日年、招
現殿に置くべき氏名帖巻尾に関し京
都の山本正春堂より御しかる見積書を
折りて来り程々協議す、折柄高田氏の
店員稿下三名、招現殿の御鏡凡
帳其他の標本を持参ここ付処要の者
を注文す、新潟の小山なる梨果を送り
来る、村山亀一郎なる来る、且つ豆本
二種を贈り来る、高田半峰昔譚の
跋文九枚寄き異る、右高田へ回附す、
午後竟と共宅へ立寄り、武蔵野雅の映畫
を見、田原氏に飯しもかへる

九日

雨、太陽、投じ給ふ文の校正摺を一校して投郵、村口半次郎より金成藤吉長立の件に付来簡岐阜縣未知の人大塚行藏より春城池筆中の地理の講りを注意し来る、村山亀一郎に復す、亦隨筆頼山陽を其ゆゑ内藤久寛に開す、村口青雲書状を着す、民友社より山陽書簡集を読む、青山石工中村勝吉より石橋氏の設計見積出を寄せ来る、午後出版部に到り吉田秀人程村氏とHB行造の件を協議す、三時より大隈会館に於て演説の委員会をひらき緊要のものを戒し晩

門帕書、宇宙寧ナル論、日清印刷の職工嘆願を名として八ヶ条の要求を提出し以ることつき出社勤業を満し夜に入り帰る、高田早苗土屋啓造等より来出、

十日

雨、今拂曉彌砲にて皇子降誕を報す、前日けて新る彌風八内親王降誕を報す、盤根を第一す、五十四内子に交付、村口半次郎を招き花青貴立こつき詫賊の手会をなす、日報八冊交付、早速整正亦遣子より遣墨の帰納を贈り来る、

午後出版部に到り一二の事をなし、印刷會社に回ハリ、職工要求に對する方案を内議し、此日の方針を変し、不良分子を此際都合によりて解雇の形式を取ることとなし、十年又七十年社略に決定し三時半物電、不在市古橋友次印来話、池田龍一も来る、村口半次印ニ書状を書す。

十一日　日

晴、楠瀬日年自己の大漢侍を版にすゝめるこの事を撰へまゝ賜ふ、相視版の修繕設計修正を石工へ命ずることを日年に托す、古橋友次印ニ帝国の内情につき来話、次ニ日随筆に又おべき項目を禁ぜ、おて来れ次ニ分ゝす、毛利富彦来話、午後光を解のこ銀座の子子コを見、天金ニ酉会して帰る。

十二日

晴、相来残の名殊に列、内子来る、茶室の修繕出来につき行て半日物を稱し且つ図書を整理す、今後八一其他ゝも来る、高田義ゝも相視版の法見納料の見積書を送り来る、浴後旅程を第七す、今日

豫定の如く十五名の不穏職工に就し一々諭示
退職の指導を為り、内五名は真に承服、三名
欠席と四時会社にも教を得ず、此上彼
等の動靜測らんとす多人の不穏者
着すべしと觀測とる、後日即代を、村
畢次の村山亀一郎にも来書、二十日早大維
持員会通牒到る

十三日

曇天、会社雪人の後の模様工場今朝平穏と
吉田にも教し来る、村口雪坂の大隈会館
へ寄れを着す、東五軸町にも到り、内日
出版部会庫へ搬入の図書を敷山現す、
森脇美稚程村宮八郎話、帝国の貴族紀
一、岐岐東京会館に集会の件に付事現驟
雨到る、十時本宅に到り、図書の敷山現を
為す、岐日出版部会庫へ移し黄立の為
め寄鍵に引渡す、へきしこの曲三十九年なり
矢吹久にも来也、二時地震あり、三時間
寓、楠瀬恂に出れを着す、於紀を筆す
会社職工解雇をつきて悉て戒の為警ア
見回りに来る、萩山工業図書館の開館式
に招えるも行かず、

十四日

拂曉ゟ豪雨刻る、佐藤田一博士出役部
遺藥の件ニ付ニ付き其分仲稚村宮へ同件ニ
付き其後、楠瀬日記、阪口献吉、高田茂
庶兄交ヲ其分、阪口ゟ益産の所さし
を贈ゟる、雨風徒倚、雷鳴る、新潟和梅
より来也、佐藤博士ニ春城六種を贈る、午後
雨風漸くやむ、乾坤を革して時を移す
六時東京令館ニ帝國道徳社の重役と令
し令社の前金を議す、其夕事為帝国社長
の外星野井村と余、何れも決せず、塚原周苑
の訃刻る

十五日

晴、朝来猶原を筆す、如村一番ゟ其分家
花古文書大井居検地帳を照す、能学出院
社長高藤勇ニ帰す其分、五軒所電花香三
春果、日清郎刷社田のトラックを借り出役
刻く移す、不啻高郎成笠原其分、午
後出役部ニ到り種村宮を出しを見、
帰路五軒所電、回ハる、本日吉家の礎石
を据へる、三田村玄龍ゟ輪津を取
る一代男二冊を寄せ来る、春城六種
出役部ゟ元宮のす、高桑駒吉折く、晩写
浮夫人来る晩、春を與すす、河井如後

ら来出

十六日

晴、出役部の編輯会に臨む、後迄重
ら来出、又高萩村口半二印ら
来出、高田を動役の邸に詰め、統ち改
選の件出役部の[illegible]の件、式を協議
し四時帰宅、かな[illegible]未亡人来訪、様
系関連の訴例る（[illegible]式十八日寺山[illegible]）
非常に[illegible]に[illegible]し田[illegible]に[illegible]す

十七日

晴、程村宗八河井[illegible]堀口[illegible]山[illegible]梅、九
時出役部に到る、今日ら[illegible]青鉛君千君出役
部倉庫に於て余が[illegible]の調査を為す
十時ら出役部の重役[illegible]に臨む、午後
余畢り書店[illegible]人五六人の青柳[illegible]を董
し且つ家に[illegible]を検出す、今日
調査済六百三十[illegible]、三経五経組会も
一[illegible]に付[illegible]千五百部程済大
略全[illegible]書の半バ也、明日休日[illegible]
[illegible]を継続する[illegible]、明日[illegible]
夜に入り帰宅、[illegible]也ら来出、後
上[illegible]家族に江[illegible]を施す

十八日　日

雨、九時出假部に列り、明るゝも引つゝ
食席内の国者の次浦を替す、午飯
後自動車を駆り青山に大隈侯を
訪ひて学校の位置を口題を掲載し青
山高橋を指ける塚原内花の告別式に
臨み、出假部に向へり亦国者次浦を董
す、夕刻迄全部浦董ける、番雅九
百三十餘に及ぶ、番の数千冊あり、寸珍
を冊数補七終る、夕刻大隈会館に青
底主人五名を案内し陳列場に充つべ
きを検し、一同を伴ひて田原屋に

酒食を饗す、酒次余が花者に就て彼
等の不感を以て、皆な曰く黄立名す
成功まで、流石に各者皆な黄れるべき
者を具すと、降旅元太郎ともに来る

十九日

時、朱村良久帝国の件に付す話、楠瀬
日年印五顆、奏刀持参、少久江鉢一森
脇美樹跡て来訪、松ケ枝女将本の塩
うずの子を贈りたる、加藤来亡人亡
の妃公品を持参、鉢塚を持す、古谷
川誠也名古屋に赴くに付す訪、保

内紀念の事業に関し上遠理事中に於て宛出
状を付す、井上辰九郎らも来出、楠瀬に貸付の
図書十数冊返りたる、午後塚内道遥来る
昆田来亡人今日一報を隔て等隔を敬く稱称に付
祝として鯉節を贈る、山野公の年譜稿本
を読む、井上辰、村山亀齢に出状を書す、

二十日

晴、谷村一太郎河体恭俊らも来出、下小前藤
松本治明治次降刊行書案引につき云々す
細川信支貴立目録印刷に付其後、追加す
べきし図書若干を出し示し、日清印刷に添書
を遣す、書木十三日昆田の紀念録編纂
に付協議す、玄橋純一帝道の内情につき
来話、降旗元太郎に公聞す、村山亀一
郎に印を郵送す、午後出版部に立寄
早大の維持員会に臨む、終つて出版
部に到り高田塚内とせと部数に付あり
協議し、晩日高田に読んで下谷警察の
塩原に銃を、北隆館の動物図鑑を購
ふ

二十一日

晴、犬工ともに月末二千円の請求あり、大阪の浮田桂

造出所 雖波理一印来幼根現成に総出の談あり
き祭文につき協議す、廿七日自ら天射に小久
江竿一に招かる、十月一日杉平敷寿編に
自邸に招かる、高橋義彦来訪午後を共に
して夫時間話す、論伝文書を通貨付、道遥
選集第十三巻配本、午後出版部会庫
に到り、家に存すべき図書を整理して時を
移す、改築のため電々持帰るべき本第廿
五個小長持三仕入第二個拓長第一個通
計三十一個也、雑録を第一して庭に入る
博文館より投稿謝金五十四円送り来
る

二十二日

時祥村宗八出版部の要件まつ来談
を得ふて昆田の野居を訪ひ各家を見、話
して紹望に老を嫌ひ帰ひ蒸に餞して
主寄暮諸を見る、障子ガラスの禁ひ至こ
ゑかゝる、門の中に築にかゝる、長屋庭を揚げ
黒る、内子に三十円交付、ピアノ調律計
来る、細川青底く青紙を表す、奴来雨
あるも、適宵つゝく

二十三日

雨雪氣温頗る冷、山中雅矢吹久、田中一貞

嗣子志賀郎川嗣子とも来出、次江外一森
脇美樹来訪、出版部紀念会の書状を稿す、
十時出版部に到り幹部会親定を討議し
頗る時日を費す、午後田中穂積を早大に
訪ひて大隈住事とかも紀念式典に配布すべき
宮をのアルバムに関し云々の申出あり、原本の
感情に題とつき内議して悩へる、村山滝齢
四醸会がとも来出、新潟石塚とも鮭の味噌
漬を贈る、難波幹事校務につき来談、市
義和太郎自動車に觸れ脇宮動を
起し、とりとの報あり、松ヶ枝女将来る、校
に入り田中穂積校務につき内議したまへる

二十四日

時米村良貞安達竜帝道の問題に付来
話、村山氏に助手を訪ふ、ちゝ来十
三印小森堅三市田某、田比田文次郎の紀
念組織募に付打会の為す事、阪上江
藤来り深射を施す例のことし、細川
青鹿黄立目線印刷の件に付来談
田中一夫三田村玄武村山滝一印にもゝ
きを見す、松ヶ枝新店牡丹の為め
一二枚惟直毛、午後ゆゑに供へ光を付
て出游、新宿に菊花四瓶を購ひ邦楽座
の映畫を見天金に酒飯してかへる、随筆

選集配本

廿五日　日

晴、山田清心来訪、後先本一隨筆一配本、藩国史敬来る、昆田紀念録編纂主撰を托す、中野礼四郎来訪、遠藤紀念事業に[illegible]訪す、細川信吉余の[illegible]目録組換ひ行来、[illegible]の交渉を着す、午後五清印刷、組立しの交渉を着す、午後五新所本書に到り、壮冊を訪ひて其の修繕を見、松う校に飲んで帰る、

二十六日

晴、今朝松平頼寿伯を染井に訪ひて[illegible]内紀念事業の件、学校の要件を話す、帝国の件には牛村良夫、安達[illegible]、[illegible]、内子に[illegible]五十円交付、午後出版部に到り幹部[illegible]に[illegible]、三時本書に[illegible]を入る、桂木屋充石を[illegible]、文部西北分[illegible]課[illegible]来る、

二十七日

雨、森脇美樹来訪、跡て帝国の高橋純一来訪、帝国の内情につき云々す、社

長官の幸次郎宛日社取締役辞表を
郵送す、御人武藤郡四郎の訃に接す
吊状を書す、佐野良太郎長男死
去につき吊状を書す、十一時ひ宅に
到り器具調度を整理各官の押入に
入れ数時間を費す、内藤久寛来訪過
日依頼の件中間貫一石筆読を伝ふ
埼内紀念る事業五万円寄附を読、理
髪、五時少江氏一に招えん田端の自笑
軒に到り飲む、日清印刷会社重役皆
会す、少人江帝務を辞任につき在任中の
挨拶也、吉木十三郎にも来る

二十八日

雨降旅元吉木十三郎に簡す、棹瀬日
年来訪我えきの講貸付、山田清遠恩話
少人江氏一昨夜の挨拶に来る、松の枝の怕
来り松茸を焼く、午後一時新築華
族会館を会場とし文明協会の業務会
をひらく、満蔵の資源につき、冬謀本部
支那深本崇兵大佐田代皖一郎の三時に
已等講話あり、夕刻帰宅

二十九日

雨、散歩の図書目録を作る、小林堅三明日

星十郎今こつき来訪、竹村良貞帝道の件に付
来訪あり、是も跡を来る、帝道益に紛糾
重役あり跡を辞任、南面のうを協議して
あり、出版部の拵部今に臨む、金壹千
円出版部にも借入、良電、回ハり襖
をハメコミ為る各電を以検す、明日大工
へ渡すべき二千円外に月末家用外万
円を内子に交付、藤屋書屋へ渡く
る、河井無役にも演説の印刷物を送る来
る、

三十日

西京、石塚三郎子訪、ちゝ山の石工にも招

魂殿献物刻字の拓本を送り来る、大
阪森繁夫(粉濱所七万三十六番地)より
三輪氣、和歌集外旅著を寄せ来
る、午後大隈へ鍍に出り演説募金を
見る、亦設計図につき協議す、佐藤印一、桐山
堺内、田中、才出席し長時分に亘り、設計
あ未決す、四時半自動車を廻り星野茶
寮に赴むく、ちゝ木十三日立人となり昆田紀
念保治募関係の人を招く、金にも編纂
につき方針其他を提議す、藤田貞敬
も来席、亦席上山獄罪悦あり、会ます、郷里
和泉西村六年の親族より曹洞宗の僧也

京都山本正春堂に納製を頼て等根現
殿の氏名帳二十帖出来到達、杉村義
大印、木林恵美、新宮藤岡吉田中等上
り来也、夜来又雨、不在中、田中穂積
来過

○十月

一日

晴、柿淵日年寄訪、田中穂積来訪長崎
事に渋り、改進後学校現事として高
田総長を代理する件につき心事を告白
して去る、吉田小久江社務につき来訪帰議

時を移す、竹村高貞あり、光帝通の
件につき来訪、大阪副島修ゆき、基
盤の製材を頼まる、午後在書に到り
植木鶴の生養前、元元土盛木を替し
多く時を費す、五時松平頼寿伯の招き
に応し紅葉館に到り、現事と共に日席
種に進講して、四原葉の遺事、
夫の訃に接す、田原の子皆愛才も夭
れ亦此なお有り歎すべし

二日

日

示、今朝八時坂本三郎をに御のを早大次

期後貴洞髭に渓しも明日にてきり田中
と坂本の洞に横ける行道に つき和解とす
とむ、十時過四谷南町本光寺に田原
藤夫の生[illegible]式あり臨武香具十四
貶る、鍋屋の久に金五十円送る、早大に
り四日維新貴会の通牒あり、文藝倶
来部より菓子を贈り来り余の宮
称を謝す河井藤俊より書
細川代表目六印刷の件につき来る午
時田原屋に演戯し先を作る武花堂
の映畫を見、又刻物名田代亮人より
依頼の良寅係に新書四冊、題署し廿一
枚演す、十後雨、

三日

時料治来書り文藝倶楽部の者の
談をとる、諾したかへす、阪上江花来る
例の注射を施す、高田の坐峰下昔丸等
出願に○き宮也来る、鳥谷幡山より十和
田湖保勝に関する意見出を贈る、
印刷に列り余が賛立目六を督促し出
版部の幹部等に協め、午後長雲、興
り植木屋の心庵を替し濤ら家見を
整理す内子に百二十円交付

四日

晴、早大維持員本日湯鈴の事重任の通告状到る、中田論雲寺ある春城六種を無事、九時海津子爵邸を訪ふ、高田先つ在り学校の件并に通過、紀念事業の報告をなし、子爵から二千円、嵩の附の申込を受く、高田と共に出版都く帰くり二三の事を定し、大隈公館に会食後、築きつゝある和高山を見る、根現殿を設くべき地なり、一時も維持員会に臨み、現今任鈴満了につき海津子の重任の事及議をなし、その通り決定、根現殿に祀るべき物都合十八名を於衛可決、畢て

議工の紀念海軍を見る、地本屋と塔を見る、ハ初めて也、余の長立目録印刷成る、竹村良貞も帝通重役をひらく通知到る、

五日

雨、安達覚其物、帝通の監査役辞任の事を立ち寄る、田中穂積の校の所懸につき、ちがる西内談して居る、真島平三郎、男女、也永口、菅清息到る、豊原又一より来候十時を中に到り植木屋の儀を相見し、三時解寓に帰くる、新菅田高藤治吉、通過柳亮、短冊三枚無事

送、小松保より来書、

六日

朝来訪客なく光を付めて散策銀座里を
稽〻筋と種々の花を賭めて松喜〻牛角を
食み、海路を書く立寄積木屋の八座
を董す、夕刻即を付めて田原屋に晩
食を進めて海へる、黄立目保二十刀
刻達、高岡図書、結負図深、陳吉とも春
城海事に就来也、夜来又雨あり

七日

時、朝来雑物を蓋す、森腸美の物、今雑
こつき事、九時半印刷、今社に至り、堂役
会に浴み数件決定、午後出版部の海軽
会に臨む、田中積積夏談、玉堂、曲ハリ
海寓、台湾、堂栖地ようす、大阪小
林儀を印しらも松菓を贈り来る、早稲田
大学より大隈侯紀念講堂開設式（二
十日午後二時）招魂祝開設式（二十日午前
九時）の寄合向状到る、本日余の書籍美
立目保を到へに配付す、帝道（口髭に付
牛村より電話あり、又高橋純一来訪、今
朝の国民新聞に蕨峯の春城海事に評

出づ、晩弓昆田未亡人来接

八日

晴、早稲田大学ら来る又河原季度の書状到る、
九時自動車を起り青山南町に大隈侯を訪
ふて多時談話、学校と侯との間の疎隔
并に田中理事に取る侯の誤解を解
かんとして大いに努む、続局迫る侯の邸の
晩餐に招かるゝことゝなり去つて早稲田大
学に田中理事を訪ふて青山訪ふの仕事
を告げ、大隈会館に田中と午餐を共に
す偶に村山知らし助の書畫を見ると

巡覧秩序の事伊藤圭氏の蘭のまくり
を賜ふ、出版部より迂干三程配本早
大より紀念の宇宙の報を送り来る、目録
余の養立を郷里の新人に郵送す、午後
大雨到る、不在中阪口献吉刀紙、東京
日に新なり、近く一人一品会を高峰屋に開
かんとし余の出陳を去ることゝ心組織の稿
本百花詩選を田村社二郎に交付す、
程村出版部、電気科、諸義録につき
来訪、稲田を養し庵に入る、養立目録者
迄に過き細川出来し出状を書す、河堂
桐谷寺訪池田珀花丁「武一」より迂心の

脚を送り来る

九日　日

晴、澁沢子、舜小林儀三郎に郵書を貰
す、森脇美樹来話、図書館施徳擔任
の大阪の間宮商店主来訪、本書に列りて
を寫す、午後先を伴ひて船坐に到り邦楽
座の映畫を見る、アレキサンダー、ジユーマ
の椿姫なり見るべし、非常亭に酒飯して内
へる、和田萬吉も来る、細川者店も余
の十六三日保十郎送り来る、

十日

晴、坂本三郎来訪、学校問題に つきて一
身上のことを及ぶ、来北氷解に至らず、村
口書店主人、十六三余に つきて来談、坂口献
吉、森脇美樹来訪、ビアノを見る、
運ぶ、内子来る、大阪紫あ新九郎も松茸
を送り来る、直に湖上を見す、十二日
電、稲葉に つきて施品の一片付を
始む、午後も電に行く、所得税徴票に
ゆ、旅館を華して夜に入る、眼部嘉香も
之寝後会社も解備の一職工すなる今
せずして通す

十一日

晴、田中総務長官につき外務省所収書類
就き吾妻氏の事を告く、金子馬次郎政友会
の件につき詳細協議の上、時討議す
橋本氏の羽生操談を来る、北浜銀行事件
役員御組合の三人より面会を求む、余
也其の件して、十時出張、高田と共に
幹部会に於て、午後、党務につき高田田中
と共に余が大隈首相と会議の仕末を報
して高田の意見をとどめ、三時文部次官の
為めに訪問、富島等と次期の出版
計画を協議し、関係者と今日大ト

の書類を本宅へ移す、村山龍平一行山川氏一
同来訪、信二移す、一日多忙、徳富猪一郎来訪、日比谷公園
を贈らる、大石正巳来訪、大隈邸にて
電話を受け、後藤新平来邸、往訪を約す、電話
にて来電、移す、早大より大隈侯夫人綱子
葬式（一）の案内を受け、何れも出席す
移るにつき母、妹を伴ひて日比谷にて
参り

十二日

晴、今朝八時大隈侯を青山に訪ひて葬儀の田中記
事の為今後する不安なく日清印刷会社とよう

ツクを借り受け後篤の荷物をもたせ稱し
三田往復十二時迄に運びたる、千南十円をす、
新居に調度を拵排するに数時間を費し
略々片づく、臺灣重極健二ゟも稱物を祝す
る電報到る、松の枝ゟ荷冠り白鷹一橋
を贈り来る、京都九ヶ所堂ゟも松茸を
贈り来る、西山堂ゟも神戸岸一遺愛萬歳
觀國紀を寄せ来る、新蕪殺として矢吹
ゟ壽司 森賢次ゟも菓子を贈り来る、日
時生命令社ゟも廿日帝劇の畫酒到る
大阪の神田吉得ゟも松茸を贈る

十三日

雨、図書館デトにつき今津並海橋井清五
郎、中内善尾来談、羽生操文藝俱乐
部に余が活話をとる和宮の事を黄
紙せしめ来完結に到らず、台湾書山中
推ゟも来書、明日大阪令館に於て余の花也
交立を開始するにつき今朝より出版部
産ゟも図書を搬入す、知人ゟも新築を
祝する以て贈品を踵く、吉田秀人出版部
并に印刷令社当社員の代理をして祝の品
を廣ゟし来る、包金百二十円也、半日植木
金を替す、門墻漸やく成る、新菅田高尋

治吉ともに梨果一籠送り来る

十四日

明、山口剛ともに来る、早大ともに式日の次第書を
送り来る、本日ともに大隈公館に余う庵書の
責立を如何ともに見也、八時行き見る、前
菓氣より、九時出殿部に列り幹部寫
に臨み去時分詰殿のるを掃織し、なほ殿
再び大隈公館に列る、閲覧者場に充つ閲
西ともに特に来りたる青底二十五名の書きを
及ぶ頗る盛況といふ、四時仙果石集中
向藤久寛に来る、新築を説するいとゝん

酒料是る同果物二瓶を贈らる、早稲田
大学ともに来る、大隈毎日新聞の福永良
見、高田生峰の辺暮にへき余の説を新
聞に掲げんことを云ふ、明朝説法を約束
状にへり坂上弘庵来り拓を贈りたる、早
稲田大学紀者紀念部に余の技術を七とも
内藤久寛に訪ひ出をまゝ

十五日

明、早朝ともに家事を整理す、阪上弘庵来
り俗の注射を施す、大村弘毅遣送集
につきて来る、其時典二巻出宇都宮

まり隣菜と鳥を賠らる、隣地との境界線
こつき議論起り物に決せず、貴立人今分朝よ
り入札を行ふ、午後到り見る事極の上田黄鐵
関西の入札隣菜まで札元の手すへ今あ
ふ事しといふ、片山河外と来月下段の
事を折合して地ゑる、出段部とも萬年草
を賜り来る（紀念品の一）田中光顕伯とも早
稲田古名すゝ宮の賜ゑる雅新前後の志
士遺墨三万四千四百點の目録を送り来る、
早大とも紀念アルバムを宮の七来る、和歌さき
ら隣菜餅きを送り来る、重梅健二とも
来信、鹿児島紀念松本学とも廿二日好

立国書館新築落成式の集団北到る

十二日　日

雨、程村宗八出段部の件につき来訪、文藝倶
出部の羽生操来る、和宮の事蹟を前田につ
き三時間説話し筆録せしむ、長屋九石拾元
付員二十円納付、昨日貴立の結果約立る
常に過ぎて金高二萬二千五百円、祝上日東
氣と今後の出張の出店とも報ゆ、午後
高田坐時来る、学校の要件を話して去る
ゆゑ、石塚三郎来訪、四五の丸のきを
書して南国を寄す、夜九時貴立会場とも

共叢園を突破[redacted](平民)園を除へて終りを
親しまる、此親心弟と大差なし先く
成りとこゝろを得べし

十七日　大祭日

雨、朝来早稲田大学新(?)のすへき稿
を草し、速達便にて着送す、旋稿を草
す、先とも以みて日本橋紀伊國屋との家にも
勝ひ世界に飯して始へる森稲田村にも
新発就として三十回の切手を贈る、
出版部にも紀念の造本を贈り来る、杉山秋
浦生伊藤美以の蘭花観画まくりを
贈る、

十八日

晴、早大にし紀念の無条鉄を青とアルバムを寄
せ来る、山田清氏楠瀬田平手紙、祝詞
、装飾の為とて高田氏より田中来る、楠瀬に
立会を依頼す、九時にも出版部の部会
に臨む、午後大隈氏の記者にすゝ峰君は
しに新もの不成を為すことに、会館内
庭園内の祝賀会新築堂にる
飾りの造花を見る、田中氏と記し
て帰へる、途中にて辰の二女姓母の家

山田清尾より新居祝の物を贈らる、村口忠彦より正式に黄上綿高の物を受く、五番平明館に狩と合す高藤治五来る置酒して話す

十九日

晴、今朝より植木尾梁山のしがらこを修理す村口半次郎と出牧を見る、台湾重栖より ブンタンを贈り来る、アルス出版部に志ち電氣誠座を見る、志ち電氣誠座を見る、出版部に到り協議決定する所あり、寺崎元重来訪北京宮城の黄尾を贈らる

午後早大に到り、三時より大隈侯夫人後子の銅像除幕式に執行につき参列す、此銅像大隈家の寄附に係る袿子姿の銅像也、今場にも多く舊知の校友に会す、晴田後京都の下村正太郎来訪、出版部より創立に関係ある故を以て紀念品代三百円を贈らる、下村正太郎より松茸到来、

二十日

晴、今日早大の四十五年式典を東京大隈紀念講堂開館式を挙くるの当日につき特に晴天

を得ざるを喜ぶ、九時（大隈家報）庭園に移し
なる田大隈家務所豊に大隈夫婦を始め拙
かせる学校印書者を合祀し初度の祭典
を挙ぐるつき時刻に先ち行く、此の豊拙
現殿と云ふ余の撰びなる也、献饗御陣の
装飾拙現講并に廣樹の油製式皆
余撰ふして必ず也定刻紀長神前に長
文を讀み巻列員一同礼拝式を終る大
隈家に族外故人遺族多く来り會す、
式後巻列員に校官員等現委員を招き
今餞に於て午餐を供す、亦別席に
遺族を饗應す、午後二時新溝豊に

式典を行ふ此日来會者四千人堂に空席
なし、壱千の学豊統代起立巻列満堂に
錐の地なし五千人を容れ得ること事実に
立証せられ、式服を着け学校員紀長を
先頭にしてハ名ヲロセツシヨンを申し
堂に入る、各国大公使も多く来り會す、大賓
并に学校の重職皆舞台に席を占む此
夜亦臨席すし、紀長常務理事滋潤子
工事主任依藤印一滋潤子（寄附者代表
として）植原正直（校友統代として）文部大臣
大隈廣（諸氏）順次演説此間二時頃四時
歓呼の間に式畢る、式後大隈今餞の

庭園に大テントを張り来賓四千人を容れ、立
食の饗を為し、[illegible]日生、[illegible]此一日を終る、此
日ヒバ十三四本吉木五六株を運び込み、川端
の内部に植込畢る外観やゝ補ふ、

二十一日

晴、村口半次郎より黄豆の仕末を報告す
代金の内七千円銀貨、木林村銀行、六千
円拂渡、三紙ら伊太利船大理石路、
像生部部紀念口四代三百円に五十円添
へて贈ひ入れ、床脇に置く、毛利宮彦来給
交趾の花入を贈る、随筆二種返礼に差す、

午後大限分銀に利り富田徳本の国[illegible]今に
[illegible]、今まで千人四時日清生命保険会社
に招かれ帝劇を見る二幕を残して八時
帰宅

二十二日

雨、後雪、森堅三、林脇美樹、田村壮二郎来訪
蹟て外村良貞帝道の花枝につき来話、今朝
も植木屋玄関の左右に外壇を作り始む、
午後一時大限新海堂に校外生大会を開
く来會者三千人、演説畢り校歌の日練習
を有せしめたると、早稲田大学の各方面を

映宇し寄る活動寫眞を見へ寄り四
時半刻會、文藝春秋とも余の寄稿を
もとめ来る

二十三日　日

晴、文藝往来部の為めに談し寄稿を校合の
上投寄、外内善作国者館デーにつき其所
来り寄る談長篇を諦す、十
時光を伴ひて出游、銀座に拙を嫌ふ、大隈
侯とも對談白鷹と飛鳥を賜ふ、内
子光同伴、歌舞伎座にて大阪の演
体新民なるとも報告者をおくり来る、大隈侯

こゝ游忠をもとめ来る、田中光顯伯とも維新前後の
志士遺墨百数十幅寄贈につき謝
書を蒙す、尚ほ往訪して謝する筈也

二十四日

晴、朝来文藝春秋の麗に至じ古本屋
に就ての稿を印し十数紙投稿、田村
壮二印来訪、一日人一品会出陳の紹介
賛付し寄る国者戻り来る、少久江雪一来
訪隣家との地境につき諸判を依頼す、早
大の佛教ちゃ年寄稿る川村依武印来
接立国寄附、并に書画帖に相撲す

河畔桐花に郵書を載し書を托す、伊藤錦
窠等某石の額裝釘成り寝室に掲く、午後
閑を得て二階の生徒に角の床飾りを
為す、去屋の壁上に涂きりを着す、午後閑を
得て旅程を筆す、

二十五日

晴、出版部の營業の衝に当たるとする校友
方藤一覧来接、村口半次郎来る、国書
責上代金の内一萬五千円受入、壱萬
円出版部へ返金、村山翁と地西村真
流水久江味一早稲田大学の新校長の谷

山守交に来接、宝本季三浜に来る、午後
華族会館に到り文明協会の例会をひら
く、外務省亜細亜局支那専業[illegible]地
に就て一時万物の講話あり、銀行、五千
一万円預け入る、小久江味一を隣家に先し
地境に就て交渉をしむ、未要領を得る
に至らず、内子に用来家用以万円相
木屋明末勘定宛二万円交付、但
里五十公里浮念寺僧量田織山の
訴訟する、村山翁と地らし物を賠す

二十六日

昨朝来早稲田公の報の為め三稿十一時書
き終り速達便にて投稿致し上京す、注射を
施す。山田清作来り複製本を配本、稲村
宗八出版部の件につき来訪。日本図書
館協会、文藝春秋社より来訪、森勝美、
来訪〔?〕三郎の進呈〔?〕と〔?〕つき大隈侯の意を
伝ふ。静子より台湾へ帰るにつき送別の意味
にて望月夫人と静子姉妹を伴ひ浅草の金田に
午餐を呼ばれる。昂若公〔?〕七月付三浦家
に嫁入す。新井〔?〕田〔?〕来りて〔?〕果物を贈り
来る。四五種〔?〕を〔?〕す

二十七日

晴、鹿児島県出身の故人の答〔?〕につき〔?〕、植木
職来る。庭の竹垣を修す。出版所の袖垣〔?〕
き、豊田〔?〕山死去につき悔状〔?〕香典を郵送
す。稲村宗八来訪、〔?〕の〔?〕〔?〕〔?〕
が〔?〕に出しおくすべて〔?〕の〔?〕二〔?〕
六千円を買ひ〔?〕〔?〕〔?〕載す。八丈〔?〕
一講〔?〕佐界〔?〕の件につき来訪、森勝美来る。
所得税、電話料、〔?〕納付済、鹿児島出
身の〔?〕〔?〕〔?〕の〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕来訪、十
二時〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕
〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕〔?〕

ニ能ス迎ヘ了、関西出張旅費百八十円学
校ヨリ到来

二十八日

雨、朝来ハ人の為揮毫、一二出状を
書す、田村荘ニ於テ徳村家ハ大石理田来訪
辞て難波理一印来りち時宮学校の
ハ十時ニハ訪ニ来る、十一時先を使ふ
て白木屋ニ内子の手帯外反抱を
購ひ天皇ニ飯して泊へる、角の分出載二
箱を購ふ、日本石油会社より本季配当
金領収、随筆文学叢書配本、旅館を

華して夜ニ入る、松の夜めに耳る、体内まで
心ヨリ来る

二十九日

雨、難波理一印村口半二印河外要後ニ
書状を書す、又田中克顕伯ニ一出を見て
京都の大文字家ハ書状を書す、藤田実敬
来訪、早稲田大学演交会ニ十五円年紀念
として銀盃カップ一双を贈り来る、午後村口
半次印一ヲ訪、黄立殿金壱万四千数円清
元演、三百六十円慰労として書物屋十八
人ニ書す金壱万円印の、預け入る、金載

千四大田工ニ渡す、村山新し吧ニ秋又帰代
二十四拂海瀬楠日三年ニ書セしめ今二階
の欄間出来、静姉妹賀田方ヘ行く、牡丹より
り標札の書をもとむ、即時書して進ず

三十日

陰、表ヨ庵ニ七万五十四五十匁仕拂、楠瀬
日年に百円謝儀をす、少久江吉田ニ簡す、
植木庵庵内の樽を築造、金三万円内子
ニ渡す、金七十円昂ニ交付、程村家ハニ出状
を書す、徹部泰房来、深三丈切、植木庵
出発を敷く、午後ゟも旅装をとゝのふ

校月ヨ大阪名古屋ニ赴かんとして松
谷我国ハニ先人にて書し東都ニ一日停
在の筈、午後売を伴ひ生徒ニ拂を
贈ふ、今朝八時四十分発汽車ヨ出発

以下全て

白紙